

◆きょう樽商大がシンポジウム 小樽商大は20日午後1時から、2013年度に文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」に採択された商大の活動成果を発表するシンポジウムを小樽市民センター・マリナーホール(色内2)で行う。

シンポジウムのタイトルは「商大は地域の大学になったか」。第一部では江頭進副学長が商大の事業への取り組みを紹介した後、教員や学生が「後志地域における人材育成の取り組み」など四つのプロジェクトを報告。第二部は「地域活性化に向けた地域と大学の役割」と題し、教員ら5人によるパネルディスカッションが行われる。

無料。申し込み不要。問い合わせは同大地域連携戦略係 ☎0134・27・5234へ。

多喜二マップ 30年ぶり一新



完成したガイドマップを手にする琴坂さん(左)ら

小樽のゆかり30か所

小樽高等商業学校(現小樽商大)出身のプロレタリア作家・小林多喜二の足跡をたどるガイドマップ「多喜二と小樽」が完成した。小樽市内の多喜二ゆかりの場所30か所を、新旧の写真や逸話などを添えてコンパクトに紹介している。

写真や逸話紹介

マップは、小樽多喜二祭実行委員会が没後85年の今年、30年ぶりに内容を一新した。多喜二が勤務の合間に原稿を書いたという「拓銀小樽支店」など今も残る建物や、代表作「蟹工船」の執筆に関わりが深い「海上生活者新聞跡地」のよう

二のことだけでなく、小樽はこんな街だと改めて知ってもらえれば」と話している。

「学びの道」などのゾーンに分けて紹介し、短時間でもゆかりの場所を回れるように工夫している。

表紙には、多喜二が獄中からの手紙で小樽の街を懐かしんだ一文(旭展望台の文学碑の碑文)を載せた。実行委の共同代表の一人、琴坂禎子さん(82)は「多喜

A4判8割分(四つ折り)。2000部を発行し、税込み1000円で頒布する。問い合わせは、実行委の大地蔵さん(0800・6099・1815)。